

第4回 四万十市文化複合施設整備検討委員会協議内容及び結果

【日 時】 平成 31 年 2 月 12 日（火） 19:00～21:20

【場 所】 四万十市役所本庁 3 階 会議室

【出席者】（委 員） 17 名 （事務局） 6 名

【議 事】

- 1 前回議事録の確認
- 2 パブリックコメント実施の報告
- 3 基本計画（修正案）について
- 4 提言書（案）について

【協議内容及び結果（要旨）】

- 1 前回議事録の確認
事務局より、第3回検討委員会で協議した内容について概要説明。
- 2 パブリックコメント実施の報告
事務局より、12月19日から1月18日に実施したパブリックコメントの結果報告及び質問に対する市の回答案について説明。
主な意見として、大ホールに関する事、JAとの合築に関する事、防災機能に関する事、駐車場に関する事、調理実習室に関する事等があった。市の回答案に関し、大ホールの座席数に関する部分については、議題3の中で意見をいただきたい。
- 3 基本計画（修正案）について
 - (1) 事務局修正部分の確認
事務局より、前回会議後修正した部分について説明。
主な修正箇所としては、会議室等 200㎡について、移設予定の新JA グリーンのコミュニティスペースを活用する計画であったが、コミュニティスペースの整備が困難となったことから、複合施設内に整備するよう修正した。これに伴い、施設の延床面積を 6,550㎡から 6,750㎡に修正した。
 - (2) その他修正すべき箇所
[大ホールの座席数（事務局案 850 席）について、主な意見等]

- ・ホールを 850 席とする理由は人口減少だと受け止めるが、だからホールも小さくて良いという話にはならない。中央区小中学校音楽祭の参加者は 2,000 人を超える。興行については少なくとも 1,000 席はないと採算がとれないとイベント会社から聞いている。須崎市の市民会館は 964 席あり、毎月公演をやっている。主催は市でなくイベント会社で、公演するのに市のふところは痛まない。人口に対しお客さんがどれだけ集まるか聞いたところ、1%（子ども向けなら 1.4%）とのことだった。つまり、愛南町を含め圏域に人口が 12 万人いれば、1,200 人集められる。専門家に尋ねたが、バルコニーを 3 階席まで設けることで、設計図をそんなにいじらなくても 1,000 席は確保出来るそうだ。積層させたほうが建設費も有利と聞いている。
- ・850 席のホールであっても、例えば前方をスタンディングとして 1,000 人のキャパシティを確保出来るのではないか。前方の客席を外すことが出来れば可能性が広がると思う。
- ・須崎市は、窪川や高知市からも集客できる。幡多でも興行主が来るほど集客出来るのか。850 席でも、そんなに席はいらないという声も多く耳に入っている。
- ・イベント会社任せはやめたほうが良い。自分たちが客を集め、イベントを打っていく、そのためにイベント会社をどう巻き込んでいくか、という視点で、自分達で主体的に行っていく前提で、何をするか決めるべきだと考える。
- ・やる事業を選ばないようなホールにしてほしい。人が減っていくことを前提にするのではなく、外から人を呼んでくるためにホールをつくることを考えてほしい。
- ・岡山市では市として医学関係の会議を誘致し、ホテルや飲食など、周辺産業が潤っているという話を聞いた。会議の誘致でもひとつの基準として、1,000 席以上ないと厳しいという話を聞いた。
- ・(事務局より) 1,000 席にすることで敷地に入らないなど物理的な制約はない。しかし、850 席から 1,000 席に増やすことで、約 100 m²ホールに必要な面積が増える。現在の案でも施設の延床面積が 6,400 m²（JA 部分を除く）で上限ぎりぎりとなっており、客席が増えれば、その分、他を減らしていくことが必要になる。また、3 階席に関しては、客席の階層を増やすと、それに付随するホワイエや動線も必要になるので、他の機能の床面積をさらに減らす必要が出てくる。
- ・850 席で良いと思う根拠は複合施設であること。公民館も働く婦人の家も大切だ。限られた面積の中でホールを大きくすると他を小さくする必要がある。
- ・面積を削ることについてだが、舞台は小さくしてほしくない。それは文化の貧困につながる。客席数よりも、舞台の広さや搬入口、舞台の奥行きや設備を問われることが多かった。

- ・出来れば 1,000 席、無理なら 850 席、しかし、今よりも良いホールになることを期待する。
- ・コンサートのためのホールではなく、交流やにぎわいのための施設となって欲しい。予算や運営管理の問題もある。客席数は多いに越したことはない。遠くの立地で駐車場があるよりも市街地がよい。色々な条件がたくさんあるなかで、今よりは大きくして欲しい、というところで 850 席には賛成している。客席数を増やすことで小ホールが狭くなったり、会議室にも影響があるなら 850 席でよい。

[協議結果]

共通する意見としては、「座席数については、極力多くしてほしい。ただし、他の機能をいじめて我を通すのは遠慮したい。また、誰かにお願いするのではなく、市民が覚悟をして、運営に関わっていくことが大切で、客席数が多いホールをつくるなら、みんながこれから集客を努力していく必要がある。」ということである。基本計画の中の座席数については、これらの意見を踏まえ、市が最終的に決定する。

4 提言書(案)について

委員長より「提言書(案)」について説明。提言書が委員会としての成果品となる。

[協議結果]

提言書は、「施設全般に関する提言」「大ホールに関する提言」「小ホールに関する提言」「エントランスロビー、交流ラウンジ、キッズコーナーに関する提言」「その他の諸室に関する提言」「駐車場に関する提言」「景観への配慮と四万十市らしさを感じる建物に関する提言」「施設運営に関する提言」の 8 項目で構成。

主な提言内容として、複合化については単なる合理化でなく、メリットとして新しい価値を生み出していく必要があること、大ホールに関しては、交流スペースや他の諸室、ホール内の舞台などにも悪影響を及ぼさないという前提において、出来るだけ多くの座席数を確保することを目指して努力すること、また、単に座席数を多くすれば興行が行われるという発想ではなく、積極的な広報活動を行うなど自ら呼び込み集客するという意識で、座席数に見合った覚悟をもって市民と一緒に取り組むこと、等を記載する。